

当社のSOFC型家庭用燃料電池「エネファーム(Type S)」が 第54回 日刊工業新聞社「十大新製品賞 日本力(にっぽんぶらんど)賞」を受賞

当社(社長:木村 康)が昨年10月に新発売した、SOFC^{※1}型家庭用燃料電池「エネファーム (Type S)」が、日刊工業新聞社の第54回「十大新製品賞 日本力(にっぽんぶらんど)賞」を受賞しましたのでお知らせいたします。

同賞は、1958年に創設され、その年に発売された新製品の中から、独創的な発明や、工夫や 研究改良により性能が世界最高水準に達したものの、わが国産業技術の向上に著しく貢献したものの、産業・社会の発展に役立つ先導的役割を果たしたものを選出し、表彰するものです。今回は62件の応募の中から、当社製品をはじめとする19製品が選出されました。

「エネファーム(Type S)」は、従来のPEFC^{※2}型家庭用燃料電池「エネファーム(Type P)」に 比べ、約40%(容積比)小型化するとともに、定格発電効率45%を実現した、世界最小サイズ^{※3}・世界最高の発電効率^{※3}の家庭用燃料電池です。また、「太陽光発電システム」と組み合わせることで経済性・環境性を向上する「ダブル発電」や、今夏をめどに提供を開始する「自立型エネルギー システム^{※4}」など、当社が推進する「ENEOS創エネ事業」のベースとなる商品です。

当社は、総合エネルギー企業として、「省エネ」「再エネ」「自立」をキーワードとする「ENEOS 創エネ事業」を推進し、自立・分散型エネルギー社会の実現に貢献して参ります。

以 上


※1 固体酸化物形燃料電池(Solid Oxide Fuel Cell): 電解質にセラミックを用い、各種燃料電池のなかでも発電効率が最も高い。セルに貴金属が不要なことも特徴。

※2 固体高分子形燃料電池(Polymer Electrolyte Fuel Cell): 電解質に高分子膜を用いる燃料電池。作動温度が低く起動・停止が容易なことから、家庭用のほか自動車用にも適している。日本では、2009年5月より各社が販売を開始しました。

※3 2011年12月31日現在、当社調べ。

※4 「エネファーム」、「太陽光発電システム」、「蓄電池」の3電池を組み合わせることで、通常時にはより電力自給率を高め、停電時にもエネファームの運転を継続し電力を確保することができるシステム。

● 別添資料

 SOFC型家庭用燃料電池「エネファーム(Type S)」の概要(PDF:126.3 KB/1ページ)